

2017 年度 G T セミナー 第 47 回 保育環境セミナー 後編 2018.7.9～7.11

第 73 号 2018 年 7 月 23 日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社ガガヤ 奥山卓矢

セミナー2 日目

前号に引き続き、第 47 回 保育環境セミナーについてお送りします。

本号では、セミナーに参加した先生方から寄せられた
「見守る保育」についての質問に対しての考え方を
ギビングツリー代表の藤森先生に示して頂きました。

また、昨年度保育環境セミナーを開催した際のレポートは
以下の通りになっています。

●2017 年度セミナーレポート報告

第 44 回 保育環境セミナー：本誌、第 20～21 号

第 45 回 保育環境セミナー：本誌、第 29～30 号

第 46 回 保育環境セミナー：本誌、第 34～35 号

※昨年度の開催した保育環境セミナーの藤森先生の講演録や
Q&A の議事録は上記のレポートからお読み頂けます。

●今後のセミナースケジュール

GT サミット	2018 年 8 月 20 日～21 日
第 48 回 保育環境セミナー	2018 年 9 月 3 日～5 日
第 49 回 保育環境セミナー	2018 年 10 月 15 日～17 日
第 14 回 リーダー研修	2018 年 11 月 26 日～28 日
職域別見守る保育セミナー	2019 年 1 月 21 日～22 日



会場ではペッパー君がお出迎え！



「文字」と「科学」の冊子
1冊500円で販売中。購入希望の方は
新宿せいが子ども園 山下先生まで。



具体的な事例が掲載

●過去のバックナンバー

第70号

昔の田んぼーカグヤ田

第71号

古民家『聴福庵』2018②

第72号

第47回保育環境セミナー前編

<http://www.caguya.co.jp/topics/news/p9889/>

セミナーを終えて思うこと

今年度第1回目となるセミナーを無事終えることができました。

竹橋から日本橋へ今年から会場を移しました。現在試験的にですが、講演内容をライブ配信できないかもテストも行っていました。

保育環境セミナーも今回で47回を数え、先生方の保育実践も厚みを増す中で事務局としても、先生方がよりよく参加できるよう試行錯誤を続けています。

そして、いつも会場の後ろで新宿せいが子ども園の先生方が、セミナーに参加された方限定で保育実践の冊子を販売しています。

冊子の内容は、昨年1年間新宿せいが子ども園を会場として全国のGT園の先生方が集まって月に一度行われていた「文字・数・科学」の講座の内容をまとめた、保育実践事例が数多く掲載されています。

よく先生方が、「行事のための準備はせず、日々の保育を行事でも見せています。」とされていますが、それと同じように昨年1年間通して、学んできたことを冊子にされ、日々行っていることがそのまま活かす姿勢を会場でも見せて頂きました。

私も昨年、講座に何度も通わせて頂きました。その中で、指針が新しくなりどう教育的な要素を取り入れていけば良いのか、どう保育を実践していけば良いのだろうか？と先生方から聞かれることがありました。

先生方の学びや実践がまた他の園で役に立ったり、子どもたちが楽しく過ごすことに役立つと思うと、今回のセミナーでも新たな保育事例がまた取り溜まったのだと感じます。

(報告者：株式会社カグヤ 奥山卓矢)



〒161-0023

東京都新宿区西新宿 3-2-11 新宿三井ビルディング 2号館 10階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢



メールマガジンのご登録は、
QRコードからお願いします。

第47回保育環境セミナー『Q & A』

今回、セミナーにご参加頂いた皆様から寄せられた質問について、【保育環境】【年齢別と異年齢保育】【保育士の対応】【食育（食事）】【行事】の5項目に分類し、ギビングツリー代表の藤森平司先生に考え方を示して頂きました。

—はじめに—

まず、私の園でよく質問を受けることがある。私たちは一人ひとりを大切にすることを言うが、集団やみんなのことは必要ないのか。せっかくみんながいるのに必要ないのかと言われることがあるが、私は集団は大事だと思っている。何で集団が大事かと言うと。皆役割が違う人で社会が成り立っているから。皆で支え生きていく社会のために集団が必要。みんな一斉に必要なのではなく、自分の役割をすることが必要なので、一人ひとりの違いを認めることが集団のために必要。集団が先にあるのではなく、みんなで集まって集団になる。声を掛けてはいけないとか、どこまで見守っていいのかとか、給食の時間になったけど真剣に遊んでいるから見守っていいのかと言われるが、声を掛けることも怒ることも必要だと思っている。ただ何のためにするのか。例によく出すが、電車の中で本を真剣に読んでいて、いつも新宿で降りるのに気づいていない。真剣に読んでいるから、放っておいていいのかと言うと、そうではなく、もしも声を掛けることは悪くない。ただ降りるかどうかは本人の判断。最初の頃、助手を連れて歩いていたが、飛行機に乗る前にラウンジでブログを書いているとふと時計を見ると直前で、一緒にいる助手に「何で言わないの？」って言ったら、「真剣にやっていたから見守っていた」と言われたが、声かけてよと言った。「給食の時間だよ、もう並んでいるよ、配膳がはじまっているよ」と言ってあげていい。自分で時間を見れることも大事だが、気づいていなかったら言ってあげてもいい。大事なのはその後をどうするかを決めるような問いかけをする。「皆、給食言っているけどどうする？」と聞いた時に「じゃあ行くよ！」と決めるようなことをする。声を掛けてはいけないのではなく、自分で決めるようにする。ドイツの給食もそうだが、野菜は身体に大事でいうことも必要で、それを言うかどうかは子どもが決める。昨日も質問を受けたときに私の孫が小学校1年生になったが、好き嫌いも多くお菓子しか食べない。野菜を食べない子に対して私の妻が「困ったもんだ」と言っていた。ある時、孫は私の妻に、「ばあば」は好き嫌いがないんだねと言った。その後に「いいな、自分も好き嫌いがない」と言っていた。好き好んで好き嫌いしているわけではない。その後にそんな自分が嫌いと言ったそう。妻は何と言ったらいいかと聞いてきた。いつも注意されても食べられない。子どもが好き嫌いあることに対して、どうしたらいいかと言ったらこの映像を見せようとした。中国の町に散策へ行ったら露店に食べものが売っていた。さそりが串に刺さっていた。これをすぐ食べれますか？ムカデや蛇、蟬とか普通に売っていた。それを食べなさいと言って食べるか。向こうの人は文化で食べる。私もゲテモノは食べないが、どこの店でも売っているので、ゲテモノではなく普通の食べ物だと思って買って食べてみた。美味しいわけでもないが食べてみた。嫌だと思える人もいる。子どもも好き嫌いがあるからと言って得もない。でも食べれない子もいる。そういう自分も嫌だと思っている。子どもながらに悩んでいるのだと思った。大人の言うことを聞かない子と言うが、子どもは悩んでいて、自分もやりたいと思っているのだと思う。どういう質問が出るか分からないが、孫を持ってみると変わってくる。真剣にしなくてもどうにかなるんじゃないかと思ってしまう。ここのところブログで書き始めているのが、最近アメリカで評判になっている本で、子どもにとって親はそんなに関係ないというもので、ちゃんと人は生きてきている。親がそんなに影響を受けるなら、子どもがいっぱいいたら全部違ってきているはずだが、そこまで影響されていないんじゃないかとある。子どもが選べるのは友達、ピアソーシャルスキル。子ども同士の気が合う友達は選べる。そこからの影響が大きいのではないかと言う本。親よりも子ども同士の影響が大きいのではないかとされている。親の影響が大きいと言われていたが、今は賞を受けている。親がいいに越したことはないし、

だからと言って、親だけが影響するわけではない。質が高い保育の中に、親の気分で子どもを見るのがよくなくて、放任の方がまだましと言われていて、不安定着愛着の子は不幸だが、そういう子どもの親でも、いい保育者からの関係の影響が大きいと言われている。先ほどの本と同じこと。親がいいことに越したことはないが、普通の保育者や友達の影響の方が大きい。親のせいにはできない。親が園だからこの子がおかしいではなくて、それを私たちは理解して、その子を認めることで変えることができると言われている。保育者の仕事は重要であると言われている、質の高い保育の中で2歳児の保育者との良好の関係が小学校3年生の成績に影響すると言われている。小学校3年で成績が悪かったら、2歳の担任のせいと言われても仕方ない。この中にも2歳の担任かもしれないが、小学校3年生の成績が下がるのは2歳のころの担任と言うことも研究で出ている。全部因果結果があるわけではないが、イギリスの研究で出ている。良好な関係は脳が出来ることに関係している。私たちの仕事は先になって結果が出る。ヘッグマンの研究がそうだが、小学校で勤務していたことがある。ある子が出た園で英語を教えたり、足し算をしていると学校のテストをするとずっと満点。親は幼稚園のことを有難く思う。しかし、教えている経験上分かったが、習っていない分野に入ると分からなくなる。そこまで勉強しなくても100点取っているから勉強する癖がついていない。習っていないところ来ても、同じ生活をすると当然成績が悪くなる。いつ頃から下がるかは習っていたところまで持つが、下がってくると勉強しないから、先生のせいにするが早く教え過ぎた保育園、幼稚園のせい。親はあそこを出ると成績がいいから幼稚園へ入れた方がいい、早く教えてくださいと要求するがその時には思わない。ヘッグマンの研究では、強化学習をしても長期的には効果がない。かえって下がってしまう。長期的には、学習意欲や学習態度は知らない分野へ行っても続くわけで、ここは幼児教育で学ぶ最大のことで、これを十分に学ばせておくと成績が上がる。それは保育園、幼稚園のお陰だとは思って欲しくない。勉強した力をつけているのは幼児教育の影響。効果が後から出る。その効果は私たちのおかげだと思って欲しくない。どうしても、短期的な結果が出るところに親は子どもを入れたがってしまう。園の方も、こんなことを教えるとなってしまう。人の記憶は3歳以下の記憶はほとんどなくなると言われ、2歳までが大事だが、大人になってもその頃を大人になって忘れる。そういう意味でもそんな気がするが、別に損得でやっているわけではないので仕方ない。何かあった時に思い出してくれると思う。私の経験からすると、自分のことを理解してくれた先生がいたなと、そういう人に会いたくなることはある。表立って感謝されなくても、保育園時代にこんな先生がいたなと思えるような存在であればいいと思う。

【保育環境】

保育室内で、遊・食・寝の独立が難しい場合はどうしたらいいでしょうか。

遊・食・寝の独立は基本的に望ましいが、そんな贅沢は出来ない。日本の文化はそんな特徴がある。アネビーさんが会場の後ろで展示しているが、ドイツのハーバー社と連携しているが、現地で社長にも会ったことがある。最近日本から注文が来るが、日本からしかない注文がある。「これは何で？」と思うものがあると言われ、どんなものが聞くと、机の脚をたためるようにしてほしいと言われ、机はたたんでいるのかと聞かれた。これはちゃぶ台文化で私も子どもの頃、一つの茶の間があって、一家団欒で食事をして、そこで布団を敷いて寝る。そうすると机が食事の時出した机が、寝る時は邪魔なので丸くして転がしてたたむ。同じ部屋を兼用していた。世界では寝室があり、兼用するのは駅弁文化もそう。座席で食べることがない。駅弁はあまり匂いがなく、冷めても美味しく、日本は贅沢できないので気を付けないといけないのは、例えば遊ぶ後に食事をするとしたら、遊んでいる子を中断させてしまう。やっている途中で中断することになってしまうので、続きが出来るようにしておく、隅の方にスペースを作るなど、中断しないような工夫が必要。遊んでいる後に食事は別の部屋。食事をしている間に布団を敷く。中断しないでいい工夫をするといい。子どもが続きをできるような工夫や活動と活動。食事の部屋と布団を敷く部屋はあまり隣にしない方がいいと言われている。うちはコットを置くだけで、まだ埃が立たないので工夫したり、埃を考

えること。もう1つは私の園で1.5倍に定員が増えて、お昼寝の場所どうしようか？と思った。色々調べてみると眠育というのがあって、子どもの睡眠を研究するところがあって、今の研究では3歳以上はお昼寝をしなくていいという結果が出ている。なので、選べるようにして年長でも眠かったら寝れるようにしている。0歳からは寝かしつけるが自然と目覚めたら起こしている。3歳以上になると自分で選択するようにしたら、制作や絵本のところに行って寝る人数が減った。ショートスリーパーと言って、個人差が大きいということも分かって来た。同じ時間だけ寝る園はよくない。大人の都合で寝かしているとバッシングが出たことがある。本人が疲れたら寝る。休息と言って、本を読んだり、制作をしたりし図鑑活動をする。そうすると先生がついてなくてもいい。全部食事を片して、布団を敷いているわけではなく工夫をしている。

【保育環境】

ゾーンとコーナーはどう違うのでしょうか？

ゾーンとコーナーの違いは、自ら環境に働きかけてということからコーナーを用意した。コーナーでやっていることは隣のコーナーまで伸ばしてはいけない。例えば、こっちでブロックをしていたら、本を読んでいる人の邪魔をしてしまうと思っていた。これは国によって作り方が違う。ドイツでは家具を壁につけて、そうすると子どもが真ん中で離すと走り回って困るので、直角に置くと四隅に場所ができる。その隅は絵本を読むところ、制作するところと言うことでコーナー（角）とした。建築でも直角に出す方が落ち着くこともある。アメリカでは、センターと言って、インタレストセンターと言って、子どもが興味関心を持つ場所を作ろうということで、絵本センター、クリエイティブセンターと言うのは、子どもの興味関心を持つ場所を作りましようとしている。ドイツ報告でもあるがゾーン体験と言って、わくわくして乗ってしまう。お寺の中で、三昧と言う言い方があるが、ゾーン体験をしてほしい。区切られた場所ではなく、ワクワクしてほしいということでゾーンと付けた。すると、コーナーと違ってある時、制作を好きな子がいて乗り物を紙で作っていた。電車や車を作っていて、他の乗り物をつくっていききたいと乗り物図鑑を持ってきて、トイレットペーパーを持ってきて作っていた。絵本を持ち出すことがいけないのか、ままごとをやっている隣で紙で作って、これをおかずに行っている時に、「それを持っていっちゃダメ！」と言うか。子どもの遊びは組み合わせて盛り上がり、子どもは学んでいるので、見立て遊びも出来ないし融合も出来ない。私は盛り上がるのが中心だったら、何処へ持っていったいい。ただ、何かを描きたいと思った時に、元の場所にクレヨンは戻さないと次の人ができない。やりたいことがどこに置いてあるかの意味を分かるようにするので、コーナーとゾーンと使うようにしている。私は大学が建築だったので、ゾーニングと言って人が生活するような区域をパブリックゾーンとか、ゾーンと言う言い方をする。博物館に行くと自然科学ゾーンのようにも言われ、興味関心でゾーンと言うので私が名付けた。もう1つの言い方は、コーナー保育が一時期流行ったことがある。一斉に何かをさせるのではなく、子どもに好きなことをさせましようとしたが、子どもが極端に一日中サッカーをしているとか、あまりよくないと廃れたこともあったので、ゾーンと付けた意味がある。言葉よりも内容を理解してもらえるといい。何をしたいかと言うと、子どもが自ら働きかけて、心をわくわくするような場所を用意して、区切らなくてもいいし、園庭にもゾーンがあってもいい。木陰で絵本を読む絵本ゾーンなどがあってもいい。子どもが色々な事に興味関心を持つことがゾーンだとしたら、小規模施設でもワクワクするのは同じなので、用意することは必要。場所として区切ると狭いと思ってしまうかもしれないが、色々なわくわく感を与えればいい。評価スケールでは、7つあればいいという意味ではなく、たくさんのワクワクを持たせましようということ。3,4,5歳のころゾーンが流行って来ていて、子ども同士が競い合って何をしたいか話したらいい。子どもたちで話合ったら、経営者会議と言って開いているらしい。そういうことを膨らましていくことがゾーンです。

【保育環境】

小規模保育園：0歳児～2歳児で12名で見守る保育をしたら、どのようなことをポイントに行ったらよいのかをお聞きしたいです。スペースがない中でのゾーン遊びの工夫を聞きたいです。

狭くても盛り上がらせていけば良い。活動が中心で狭い中でも興味関心を持つことは公園でも持たせられるし、散歩でも持たせられるので、広い中から子どもの興味関心を引き出してあげれば良いと思う。3人だと少ないと思う。子ども同士の関わりが少ないと思うが、12人いれば良いと思うが、3～5がいらないので園と連携を取って、関わったりするといい。長崎の平戸は過疎で、5人とか多いが1週間に1回。同じ見守る保育をやっている園で集まろうと大きな集団で過ごすことも意図して、仲間を作るといい。たまには大きな集団でやる。系列園があるなら合同ですとか、子どもが様々な体験を出来ることが大事です。

【年齢別と異年齢保育】

当園でも異年齢保育をしているのですが、周囲の子が困っている時（お茶をこぼした等）に自分から手伝おうとする姿が少ないです。保育士が手伝う姿を見せる事で変わっていくのでしょうか。良い対応があれば知りたいです。

質問の園が取り組み始めて何年かだと思うが、始めた当初はモデルがいなかった。子どもは真似をして、文化を伝承していくが最初はモデルがいなかったので、どう違う年齢と付き合えばいいか。だからこそ異年齢を始める意味がある。質問にあるように、先生がどんな対応をするかを見せること。その対応が子どもがそれをモデルにして、真似を出来るような対応にしないと先生という権力から注意されても伝承しない。「年長だったらこするんだよ」とモデルを見せることだと思う。私の園で4月当初は大変。そこに助かるのは卒園児が手伝いに来てくれる。特に4年生が来てくれ、卒園児が年長児より上手。うちの新人職員よりも見守る保育が上手。ある時2歳に入っていった卒園児がいて、帰りにお便り帳をしまい忘れた子がいて、これ仕舞って来てと言ったら、その卒園児がお便り帳をしまいに行った時にふっと、その子のところへ行ったら自分で仕舞って来てと言っていた。多分、そういう姿を見ていたのだと思う。おむつを替える時も手を首に回していたり、先生を見ている。下の子を手伝うのも、先生がしてあげるといいと思う。若い職員にも口で注意せず、年配の先生が姿を見せてあげる。どうしたらいいかの姿を見せる。口で命令してやらせるのではなく、姿を見せることも大事。子どもの中で伝承するまで、先生がやってあげれば良い。ただ手伝い方がやってあげるのではなくて、本人が出来るように手伝う。お茶をこぼしたときも、私の園でも雑巾を床の上、机の上、トレイの上で服雑巾の色を変えている。床の場合は青、机の上は黄色とすると、自分たちでしようとする。分かりやすくしてあげると、自分でやろうとするし、もしかしたら小さい子に、こういう時はこうするんだよと教えてくれたり、実践報告を見てもそういう姿が見られた。先生と子どもも異年齢ですので、先生もモデルとして入る。経験者が経験をしていない子に教えたら伝承されていくと思います。

【年齢別と異年齢保育】

異年齢児保育を行っているのですが、年少の子たちが上の子を見て、遊んでいる姿は見られるのだが、年長の子たちが下の子たちへの思いやりや手伝うなどの姿がなかなか見られません。もちろんしなければならぬ訳ではないとはわかっていますが、異年齢の良さとも思っているのですが、どうすれば下の子に対して思いやりの気持ちが生まれるのかを知りたいです。

明日もし私の園に来られるのなら3,4,5歳の部屋に掲示がある。子どもの文化はどう伝承していくかを子どもに聞いたもの。ブロックを積んでいた時に壊れてしまった、どうする？それを3,4,5歳に質問したものがある。その多くは、年長さんにブロックを壊されたらどうする？と聞いたら、誤って壊しちゃったら、今度から気をつけてと

言っていた。それは、自分がそうした時にそう言ってくれたからと言うのがほとんど。やってもらったときによかったから、嬉しかった経験が、次にやってあげることになっている。手伝ってもらって、共感してもらって嬉しかった経験を積み重ねて人にやってあげようとする。この経験がないと人にするのは難しい。まずは、先生が共感して子どもが嬉しかったら次にやってあげようとする。3歳の子が泣いていた時にある4歳の子が慰めていたが感動した。慰めているのに感動したのではなく、1年間ずっと泣いていた子が一生懸命慰めていて、お母さん戻ってくるよという映像を見ると、散々泣いていたのにと思うが自分が嬉しかったことを、人にやってあげようとする人が多い。研究の中でも人のためにやろうというのは6年生くらいからしかないとされているが、困っている人がいると助けるのは、わざわざ思いやらなくても困っていたら手伝うと思う。人間はそういう心を持っていると言われている。ドアを開ける時にものを持っていると、19ヶ月の子でも開けてくれると言われているが、困っていないとしない。やってもらって嬉しかった経験が積み重なることがあると思うので、思いやりの気持ちをつけましょうというよりは、困っている時は手を貸してくれるだろうと思う。私の園でも子どもが冷たく見えると言われる。島根から来た職員はまず、子どもたちが冷たいと思ったと言っていた。東京の文化で積極的に手を出さないが、頼まれたらいやと言わない。逆を言えば、頼まなければしない文化もあり、手伝ってと言ってみたらと、子どもも嫌らがないと思うのでいいと思います。

【保育士の対応】

2日間の講演、紹介、報告を見させていただいて、まさに自分の理想としている素晴らしい理念での保育だと胸を打たれました。しかし、我に返れば、自園ではまだまだ達していないと痛感しました。どうすればいいのでしょうか？

1つは達していないと感じることは半分達していると思う。問題なのは自覚していないこと、痛感している人は、半分は達している。子どもたちのことを考え、大人の考えでしていたと思っているだけでそれで十分だと思う。子どものためだとやってしまうことは始末に困るが、その先生からしたら子どものためだと思っている。その人がいけないのではなく、そういう目に遭ってきたこともあるので、子どもを思う気持ちは大事に思ったほうがいい。ただ、思う場合はどういう方法がいいのかを考えることだと思う。保育をした時に、長い先生がこれまでしてきたことはいけなかったのでしょうか？と聞いてくることがあるが、「これまでの保育のおかげで今がある」と言っていたが、今は時代によって要請されるものが変わる。戦争中は人をどう殺すかを教えていたが、今は時代によって違ってきている。例えば、農家の課題としてまず一つは早く作る。見てくれをよくする。キュウリを早く作ること、真っすぐ作ること、時期に関係なく作るとしたら、農薬をたくさん使うことがある。体に良くないから否定する。子育ては、早く安く見てくれよくするものではない。しっかりした人を作ることですから、一緒に考えていきましょう。ただ否定するわけではなく、考えていきましょうということ。では、どうしたらいいのかをみんなで話し合っていけば良いと思う。自分で自信をもって、これでいいということはないので、いつでも悩んで私の園でもいまだに職員同士でやり合うこともあるし、私も偉そうに言っているが、職員は私の言うことを否定することもあり、それはよりいいものを話し合う訳なのでどうってことはない。いいものをつくっていこうということなので、子どもにとってどうあるべきかを考えるだけで達していると思うのでいい園を作っていけたらと思う。

【保育士の対応】

活動の中でどこまで自由にさせてあげれば良いですか？就学に向けて、小学校の生活によせて集団生活した方が良いですか？

自由の考え方だが、好き勝手にいいことではなく、自分のままにと言う意味で自由の反対は統制と言う意味がある。子ども主体であることは、自由で好きなことをしていいことが自由なわけではない。当然自由にさせてあげる

といいが、好き勝手にしていいことではない。お集りの時に人の話を聞くことは大事なことだが、問題は先生が大事なことを話しているのか。毎日決まったことを儀式のように話しても子どもは聞きっこない。それぞれの年齢によるが小学校 1 年生の教員の時の話だが、朝礼で校長が話している時に私のクラスの子がグダグダしていた。隣の先生が「仕方ないわよ、校長の話がつまらないからいけないのよ」と言ったので、「校長にだってつまらないと言に行けばいいのに」と言ったら、藤森先生は軍国主義ですねと言われたが、グダグダすることではなく、子どもでも文句に行けるのが民主主義と言うことで、朝礼の後に今日の話はつまらなかった、面白かったと言に行くようにした。文句を言に行くためにはちゃんと話を聞かないといけない。子どもたちに伝えたことはグダグダするとかきちゃんと聞くではなくてお集りの時に何で人数把握をするかと言うと、今日は何人分用意するかをするわけで、返事をしないとその人の給食がない。何で返事をしないといけないかが分からない儀式にしても仕方ない。やたらと走り回ってしまうのは、その子はそのあとできる保障がない場合が考えられる。その続きができるよということもある。色々な工夫だがドイツでは、遊んでいてお片付けしてお集りしましょうという時に、遊びを片付けてお集りをするが、そのままお集まりしようとやりっぱなしにして、じゃあ片づけに行こうとしていた。遊びの途中で切りあげるのは難しいので、片づけない子がいたときに子どもたちに相談したら、次の日はその子だけが片付けられればいいとしたら、二度とそういうことはなくなった。色々な工夫があるのだと思うが、みんなでやる、何でも子どもがやりたがるのか、続きができないとか、何か原因があり、走り廻るとしたらその子にとっては走る距離が足りない可能性がある。子どもは色々な特徴を持っている。多動性発達障害はやたら動くのが好き。お集りの時じっとしていなかったら障害だが、走らせたなら早い、メダルを取ったボルトも多動性発達障害。多動でなければあんなに速く走れない。ボルトに走らせたなら世界一。その子には走ることを多くする。お集りの前に園庭を 10 周したらじっとしているかもしれない。その変わりみんなで集まる時は静かにしようとする。その子の得意なことを発揮できるようにしてあげることだと思う。無理やり集めるのではなく、集める意図がいる。私の園の近くに公立の幼稚園があるが、小学校へ行ったら困るだろうときちんとさせている。最初のうちは保育交流をしていたが、今は運動会だけ共通にしている。玉入れは小学校が一緒になるので一緒になって練習をするが、うちの園児が不思議がる。ピッと笛が鳴ったら座らせているが、頭を押さえて言えればいいのにねと言っていた。小学校へ行くとうちの園児の方が座る。言われて座っていない。幼稚園の時に集団にやらせていたら返って小学校でも酷い。座ること集団で動くことに意味があるが、怒ってさせていたら、怒られなくなったら座らなくなる。そうじゃなかったら先生もメリハリをつける。うちの場合職員を信じあうことで分かるのは 1 番の先生がリーダーで、2 番の先生はグダグダした子を注意するようにする。3 番は次の準備をするが、ある時後ろでおしゃべりしている子たちがいた。2 番の先生が本来注意するはずだが、何を話しているのだろうと、気づかないふりをしてそばに行ったら、子どもたちが「トマトのにおいしい？給食に入っているのかしら？」と五感を働かす話をしていた。下が給食室なのでお喋りして、2 番の先生は、1 番の先生の話よりも子どもたちの会話の方が大事そうと思って、放っておいたらいい。1 番の先生は何で中止しないのでなく、お互い信頼し合って、注意しないのは何か意味があるのだろうと思わないといけない。子どもが何を大事にしているかを考える。子どもが一体何をしたいのだろうと考える。無理やりいかされればいいということではない。遊び以外はやりたがらないのだったら色々な事を遊びにすること。例えば、おむつを替える時にひっくり返って替えられない。新人がおむつを替える時、アンパンマンのシールを貼っていて、子どもが替える時に見えるようにしていたり、今日のラッキーガールと言って騒いでいた時に先生がどこかに椅子の後ろにシールを貼って、シールが貼ってあった人がラッキーガールと騒ぐと競って座っていた。ある子が自分がシールを貼りたいと言って貼っていた。お集りもつまらなく集まるのではなく、工夫するとか、おもちゃも 1 歳児が中々片さなかったら、ショーボックスに入るような型を入れる玩具がにして片づけるようにするとか、遊びとの区別がないので片づけることも遊びにしてしまう。遊び以外のことは誰だってしたがる。すぐ手伝ってしまうのは、経験してこなかった子には手伝ってしまう。先回りをしてやってしまうと依存になってしまう。赤ちゃんが朝一人で遊んでいるのに抱き上げてはダメで、抱っこと言ったらしてあげる。これも研究である。スポックの博士

やフロイトの考え方があるが、赤ちゃんが寝る時は一緒に寝ちゃダメと言われ今でもヨーロッパでは今でも広がっているが、現在の研究ではすぐ抱くと、総抱き時間は短くなると言われている。一番してはいけないのは、言ってもいないのに抱っこすること。それは年長でもそう。抱っこで来るのは嫌がるが何かある。満たされていない不安があるのでその時にはしてあげる。必要な時はしてくれると思うとそうやって来なくなる。小さい子でも、大きい子でもやってあげる。言ったらやる、言わなきゃやらないとするといい。子どもが何か言ってきたとき対応する時、これまでは対応することが大事と言われてきたが、言わないけど気づいてしまうからやってしまっていたが、その時代では逆に言わなかったらやらないことも大事と言われている。言わないからしないというのが大事で、今は言わなくても気づいてやってしまうことが多くなってきているが、あえて介入しない。子どもと一緒に遊んじゃいけないのかと言ったら、一緒に遊ぼうと言って来たら積極的に遊ぶ。子ども同士で遊んでいる時に先生も入れてと言わないこと。赤ちゃんでも先生を巻き込みたいと思ったらいつでも入る。

【保育士の対応】

未満時（1歳）の中で今、噛みつきが増えていて子どもをしっかり見守っているのですが、どうして噛みついてしまうのか、どういう気持ちなのか見守ることも大事なので観察しています。ですが、その間に噛みつきが発生してしまいます。噛みつきの対応があまりうまくできないので教えていただきたいです。

噛みつきはよくいろいろなところで課題になるが、何で人は噛みつくのかを思ったことがある。国立科学博物館の人類の進化の中でだんだんと歯が内向きになってくる。昔は歯は攻撃で使っていた。それを今は咀嚼にしか使っていないので、噛みつきになる。攻撃するとき赤ちゃんは何で、歯を使うのかを疑問に思った。噛む作業はいくつか考えられるが、一つが咀嚼、前歯は肉をかみ切る時に使うが、それを攻撃に使うのだろうかと言うことはないだろう。噛むことで唾液を出す。咀嚼を促すために噛む行為をするが、唾液を出すために噛むわけではない。玄米を食べさせることで噛む回数が増え、脳の活性化もあるが、噛んで脳を活性化させていないだろうと思ったが、野球選手がバッタボックスに立つときにガムを噛んで緊張を取っている。昔はマンガのシーンでタオルを女性が噛んで、キーとしていたが、急激にストレスが溜まった時に噛むのだと思う。善悪ではなく、ストレスを下げる時に噛むのだろう。先生は仲がよいのに噛んでしまったと言うが関係ない。集団の中に入る時のストレスで噛む。噛みつきの話し合いをした時に、原稿は幼稚園の先生が書くと言われ、幼稚園では3歳で噛むらしい。私たちからすると、3歳で噛んだら噛み切ってしまうだろうと思うが、初めて家から集団に入るときのストレスなのだと思う。大体、忙しい時などにがぶっと噛む。どんな状況の、どんな時間帯かを気を付ける。その子のそばにいる時は間に入るとか、距離を置くとか、先生がその間に入るとか、その子同士を離すとか、噛みつきで危険なのは伝染する。やはり止めさせないといけないので、見守るのはどんな相手に噛むかを見ることを大事。その状況を守ること、その状況にさせないこと。あえて先生たちがゆったり過ごすとか、子ども同士をそばに置かないとか具体的に離す。言い聞かせても無理。先生は仲がよいからと、放っておいても無理。そういう状況を作らないとかをしないといい。ドイツとかは防ぐためか、年長までおしゃぶりをさせたりしていた。日本はあまりしない。ドイツでは、年長でもお散歩をしていても、おしゃぶりをしているのを見たことがある。一番は集団の中のストレスがあるので、ざわざわ、わさわさしている時に起きるので、ゆったり過ごす私の園では少なくなった。どんな状況の誰かを調べるのだと思います。ドイツでは床にふわふわしているものを置く。ミラーボールのようなもの、クリスマスに使うような電飾がちかちかしたりする部屋がある。あとは、絹のようなスカーフを置く部屋も作ったりして、気持ちを落ち着かすことも意図して行っている。癒しのコーナーなども用意している。

【食育（食事）】

偏食が多い子がクラスに1名いて、最初の頃は皿に入った少量の野菜を食べていたが、今では肉・魚といった好みのものしか食さない。（野菜が間食できるように、魚・肉を半分にシラップに包んで、野菜を食べたらおかわりを渡していた。）家庭では野菜嫌いに困っており、家庭でも食べない。給食の先生にもアプローチをかけ、「食べてくれなくて悲しい」等、声を掛けたが、伝わっていない。無理強いをさせたくないのに嫌がったら終わりにしている。役所にも相談している。園で子どもにどうアプローチをしていけばいいのか教えてほしいです。

偏食は困りますがどういう野菜か分からないが、生野菜は給食ではないと思うが、私の子どもの頃はなくて温野菜が中心だった。キュウリやトマトは食べていたが、生野菜は最近の健康で食文化の問題もあるが、ヨーロッパは、野菜はほとんど食べない。じゃがいもくらい。ホテルで困るのは、肉ばかりで繊維物がなくて便秘になる。子どもたちも欧米化しているのかなと思う。牛乳は日本人の腸には合わないと言われて、分解できないと言われ下痢をすることが多い。その国の文化、一時期オリーブオイルがいいと言われていたがギリシャなどでしか効かないと言われ、腸とかの違いもあるので、今の子は欧米化してきているが色々なものを食べてもらいたいと思っている。目の前で美味しく食べることが一つと、その栄養を他の食材で摂れるならそれに越したことはない。例えば、ピーマンを食べてビタミンCを摂らせたいと思ったら、イチゴでも摂れる。例えば、10の姿の発表をしたうちの職員の森口君や調理の先生も嫌いで食べないが、栄養で食べているわけではなく、美味しいから食べているので、美味しいもので食べたらいいのではと思ってしまう。給食では1種類しか摂れないので、家庭では他の栄養価で食べれるようにした方がいい。それが嫌いならほかの栄養素で摂るように伝える。見た目や食感で嫌だという人もいるが、トマトのヌルヌルが嫌という人がいるが、ケチャップは食べるという人もいる。工夫してやってあげることが必要かもしれない。給食会議で1回食べて残菜が残った時にどうするかを検討して、2回目に行っている。黒ゴマは食べないけど白ゴマで食べることはある。色々な工夫をして話してみるといい。だからと言って、無理強いしても栄養にならないので、目の前で美味しそうに食べるとか、嫌いな人は何があってもダメだが工夫をするといい。私の孫も本人が好き好んで、好き嫌いをしているわけでもないのに、そういう手伝いをしてあげる。食べさせなきゃではなく、どうやったらいいかのスタンス位でいいと思う。

【食育（食事）】

2歳児クラスのセミバイキングを具体的に知りたいです。

特におかわりの時はどのように行っているのでしょうか。

母乳のときの問題だが、私の子どもが二人いるが100%母乳だったのでミルクをあげたことがない。予備で瓶を買ったことがあったが、使ったことはない。その時に不思議だったのが、飲み始めは泣くので分かるのだが、いつ飲み終わるのだろうというのが不思議だった。自分から口を離す。その時にどのくらい飲んでいるか分からないけど、そこで終わりにする。それを哺乳瓶で自分で口から離してもそこで終わりにせず、最後まであげようとする。母乳ではそんなこと言ったことない。まだ残っているからとは言わない。赤ちゃんは自分で飲む量が分かっていると言われている。食べる量も自分で分かっていると言われている。哺乳瓶の時にもっと飲めとか、まだ残ってい

る。飲みたいのにもうないからダメと、大人がコントロールしてしまうと、本人がどれくらい飲めばいいか判断する能力がなくなってくる。セミバイキングをしても、その量が分からなくなってしまう。それをチェックするのは体重測定をして見た目一杯食べているかではなく、ちゃんと伸びているかを見るべき。母乳の量が違ってても、増える量が一定だったらしい。ちゃんと伸びているかをチェックしていく。食べている量で一喜一憂しないこと。自分でまだ言えないことがある。量を把握できていない可能性もあるので、うちの場合は全員よそって減らすかしている。シールで一杯ちょっとで貼ってとか、大きい小さいかが分かるか、セミバイキングで「セミ」とつけたが、ホテルのようなバイキングは食べたいものを食べたい量を摂っているが、自分で食べたい量を摂るだけでなく、人に伝える。自分の気持ちや要望を口で伝える練習が入っている。言うことが必要と言うこと、黙ってよそることではなく、言わせることが大事。大人しい子でも、少なくとも給食の時にどのくらいと言わないといけないので、セミバイキングとしている。2歳のクラスから少しずつどれくらい食べたいか、何をしたいかを言えるようなことに関係してくる。おかわりもっと食べるかどうか。自分はこれで足りるのかどうか。自分で練習するのは2歳児。足りない場合はおかわりというようにする。足りない時にはおかわり、「もっと」と言ったら増やすことだよと、そういうことを教えていくのは2歳の頃。口で伝えるように練習していくことが2歳だと思っているので、自分の口で言えるようにしていく。

【行事】

生活発表会のようなものはありますか？あるとしたらどのようなことをしていますか？

生活発表会はある。うちの場合はお楽しみ会と言うが、目的の一つは発達を伝えることで、言語と表現の発表をしている。言語は劇、表現の2つを伝える役割がある。呼ばれたら返事をするのは言語領域にあるとしたら、名前を舞台の上で返事をするところを見せる。合奏や歌もある。小学校でも合唱や合奏がある。学年ごとに出来るようになると書かれている。教科ごとに音楽メロディー音を弾けるようにすることが生活発表会だが、幼児期は「～～を楽しむ」、「～～味わう」ことが目標になるので、音を出すことを楽しんでいることが発表会なので、楽しんでいることが生活発表で、小学校で出来るようになるための基礎だから、まず楽しまなければいけない。嬉しそうに楽器を弾いていたり、自分のことを味わったり、音楽の先生の志村先生は大声で歌うことは意味がないという。自分の声を味わったり、みんなの声を聴くことが発表会。劇もあるが表現の発達だが、練習をすることもある。私の園では3,4,5歳いるので生活発表会は年度ごとにする。なので、年長だけで劇をするが、年長だけは自分たちで台本を作ってセリフを作る。色々な役割があるので、どんどん振り付けも考えるが、3,4,5歳の部屋の中ですので3,4歳が見ている。観たい子たちは年長がやっている姿を見る。そうすると4歳児が5歳になった時に絵本を選んで、踊りを決め始める。劇の間近かになると、なるべく散歩に行って、本番を楽しめるようにしている。色々な工夫をして当日をベストにするために合唱が予行練習を見て「何か下手だね」と言ったら、今日のうたは本番で歌う歌ではないと言われ、イントロクイズをして一番知らない歌にしたから自信なさげに歌ったから下手でした。本番が一番好きな歌だから大声で歌うでしょうと言ったり、去年は3歳の3匹の子ブタの練習で、オオカミを懲らしめて煙突で鍋でやけどさせるシナリオだが、子どもたちがかわいそうだということで、いい湯にしてお風呂にしようとし

て予行練習をした。ちょうどいい湯にしようとフーフーした。「あれ、冷たい！冷やし過ぎたでしょう？」、加減しすぎて暑過ぎとしたり、本番はちょうどいいとした。劇遊びをして楽しむことが翻意なので、楽しんで劇遊びをしたり、本番に見せることなので行事もする。そういう時は学年別にする。他の行事でもみんなそう。子どもたちにもし行事がなかったら、子どもたちはつまらないと思う。昔は毎日お百姓さんでつまらないので、村祭りがあった。地域に阿波踊りがあるとか、神楽があるのはそのために毎日練習する。練習が悪いことではない。それは本人の意思で楽しくて当日ちゃんと見せようと思って連取するので子どもにそう持っていくなら悪くない。子どもたちが本番に見せようと思って練習することは悪くない。だけど自分からするように先生が持っていくことが必要だと思います。園は色々な行事があり、今月うちの園では、夕涼み会があって準備をしている。うちは親子で楽しむことを目的にしているので、親が店を出したいと言われたときに、親に店は出さないでと言っている。それから制作コーナーがある。成長展にも制作コーナーがあって、成長展は子どもが制作するところを親が見て、こんなことができるという成長を感じられるようにしているのが制作コーナー。夕涼み会の制作コーナーは、親子で夕方一緒に制作をして楽しむこと。そのためにテーマがあり、今年は日本がテーマで、漫画や子どもの絵本が舞台になっている。先生たちも楽しんでワクワクしているので、子どもたちも当日を楽しみにしている。ノルマかのようにするのではなく、色々な行事に子どもと一緒にワクワクする必要があるのでいろいろな工夫をしてみてください。

本稿は、2018年7月10日に行われた第47回保育環境セミナーの「Q & A」の内容をまとめたものです。

(文責/奥山卓矢)